

キャラクター名
一ノ瀬 朱里

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ノイマン		ワークス	中学生	カヴァー
オプション			年齢	13	性別
覚醒	探求	衝動	加虐	初期侵食率	29 %
出自	兄弟	経験	親友	邂逅	ビジネス

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	8
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	8
精神	6	0	0			6	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	2		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達	4	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ボルトアクションライフル	射撃	6r+4	-	8		マイナーアクションで命中判定+5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
携帯電話	
コネ:手配師	
ウエポンケース:ボルトアクションライフル	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
天才	P	N		
一ノ瀬 万里	P 感服	N 悔悟		
手配師の人	P 誠意	N 恥辱		
空々町	P 憧憬	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト<ノイマン>	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果: C値-[Lv]。下限7。選択したシンドロームのイフェクトとして扱う。								
コントロールソート<射撃>	★	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: 選択した技能の判定を<精神>で判定する。								
マルチウェポン	1	3	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: 同じ武器を2つ合計して使用可能。判定達成値は-[5-Lv](最大0)								
零距离射撃	1	2	Xジャー	至近	-	対決	-	
効果: 射程:至近になり、射撃攻撃+LvD								
常勝の天才	5	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	ピュア	
効果: □1シーン1回まで、1Rの間対象の攻撃力+[Lv×4]。自身選択不可。□								
天才	1	1D10	オート	至近	自身	自動	D0イス	
効果: 1シナリオLv回、判定直後+精神								
完全演技	★	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 緻密な計算と膨大な計算を累積し、個人の人格を細部に至るまで模倣するイフェクト。その完全な演技は、顔つきや声までも見聞きするものに誤認させるほど迫真のものだ。GMは必要と感じたなら<知覚>による判定を行わせてもよい。								
代謝制御	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 脳神経を完全にコントロールし、代謝機能を完璧に掌握するイフェクト。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

地元の有名進学校に通う中学一年生。
平凡な家庭に生まれ、平凡な環境で育った彼女は、正に非凡と呼ぶべき学生生活を送っていた。

有智高才。彼女が学校のテストで満点以外の点数を取ったことが無いことを、全校生徒が知っているだろう。百発百中。中学から弓道を初めてわずか三ヶ月で全国優勝を経験した人間など、彼女以外にはいないだろう。外寛内明。自身の知識を惜しげも無く提供し、研磨を積む彼女に悪感情を抱く者など誰も存在しないだろう。

彼女の学友に話を聞けば、誰もが「完全無欠の天才」だと口を揃えて言うだろう。
……だが、何時から彼女はここまで出来るようになったのだろうか？小学校の頃は彼女を知る人は疑問に思うかもしれない。少なくとも、彼女が小学生の時は、ここまで目立つような人間ではなかったのだ。

小学校の頃はもっと大人しくて、成績だって平凡並だったはず。
あの万能感。なんでも出来る完全無欠の人間。
まるで、アレは『彼女の兄』に、よく似ているような……。

だが、そんなことは些細な問題に過ぎない。
『私』には、今の学校生活なんて『オマケ』でしかないのだから。

何の因果かは知らないが、私はお兄ちゃんと同じ天才になってしまったらしい。
両親は、何の疑問も抱くことなく私を祝福してくれた。私のお兄ちゃんも、私と同じ時期に天才になったから。